

令和6年度岩城少年自然の家第1回協働会議 要旨

1 日 時 令和6年6月11日（火） 午前10時から11時半まで

2 場 所 岩城少年自然の家 大研修室

3 出席者

(1) 委員

三浦委員（会長）、三戸委員（副会長）、長田委員、野尻委員、齋藤委員、
加藤委員、佐々木委員、近藤委員、山本委員

(2) 県教育庁生涯学習課

古屋課長、渡辺主任社会教育主事

(3) 事務局（岩城少年自然の家）

須田所長、栗林主査(兼)総務チームリーダー、菊地主任社会教育主事(兼)指導
チームリーダー、伊藤主事

4 議事概要

(1) 開会

(2) 岩城少年自然の家所長あいさつ

(3) 県生涯学習課長あいさつ

(4) 出席者紹介

(5) 議事（議長：会長）

①報告

○今年度の岩城少年自然の家の運営について

○利用状況について

○主催事業予定について

○クマ事案への対応について

○議事録の公開方法について

②協議

(6) 閉会

5 協議の概要

委 員	ウサギコースについて、県有林が広大に伐採されて、今ああいう状況になっているわけだが、実際に歩いてみると、風車や自然の家が見えてこれまでよりもすごく景観がいい。ただ、木製の階段の補修や倒木の処理が必要だと思うので来年度に向けて事業費を予算要求して、早く再開すべきでないかと思うがいかがか。
事務局	景観がよい、素晴らしいという話を今伺ったので、こちらの方で持ち帰って検討して、要望にできるだけ答えられればいいなと思う。
事務局	鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会と連携しており、そちらの研究員に一度見てもらった。伐採されたところは、植生がどんどん変わっていくので、それを観察するにはとてもいい場所で、切り拓かれるとそこでしか育たない植物が恐らくこれから繁茂してくると思うので、こちらの森林地帯とは違う分布になってくるのを子供たちに見てもらうというのはまず、いいだろうということであった。グーグルマップで確認すると今まで一部が森林地帯で気づかなかったが、地形的にすぐ崖になっていて、子供が間違っってそちらに行くと落ちる可能性があるところがあるということで、そこを考えながら、風力発電施設の設置

の一番メインの工事が終了したところをめぐり、一度コースを確認して、先ほど話があった修繕しなければいけないところ等を確認し、来年度稼働予定の風力発電施設を見つつ回れるコースを再検討したいということでは動き始めようとしているところである。伐採されたことによる開けた風景で自然の家まで高速道路からまっすぐ見える状況になっており、そこに風力発電施設ができて、新たないろんな見所ができていていると思うので、そういったことも調べながら、来年度は復活させたいと考えている。

委員

少年自然の家という名称からするとどうしても少年というイメージがつくが、一つの企業とか幅広い年代の方々が利用できる施設ということで非常にありがたいと思っている。先ほど説明にあったが、職員の方々が、非常に利用活動に一生懸命頑張っており、そういった活動を県民の方々にしっかり認知してもらえれば、もっとよい効果・成果が現れるのではないかなと思う。今年度の行事予定で意外に思ったのが、能代市内の中学校の方々が参加していることである。県内3施設あるが、40年前と比べると高速交通体系も大分変わっていると思うので、秋田県全域を踏まえた利用者が増えればと思う。せっかく県内3施設ある訳なので、そういった機能を十分に生かしてもらえれば、子供に限らず生涯学習として様々な方々が利用する施設としてもらえればと思う。

事務局

昨年ちょうどこの会議で、中学校になったとき、またここで別の学びができるようなプログラムを提供したらどうかという意見をもらった。ちょうど鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会と連携を組んだ際に、この地域の方々の自然学習に関しては、鳥海山・飛島ジオパークから無料でガイドとかそういう方を派遣してもらえるが、それ以外の方々に関しては、ガイド料がかかるということであった。ただ、学生に関しては半額でガイド料が出るということを知ったので、申込みをしたこちらの団体には、鳥海山・飛島ジオパークのジオサイトをガイド1時間半くらいつけて、見て回ることもできる。今年度は利用相談会がある度に、由利本荘市担当の方に来てもらって、その事業があることを利用相談会で利用者に宣伝している。今宣伝しておくとも恐らく来年度の事業を考えた際に、そういった事業でやれるとわかってくるので、計画に組み入れてもらえると恐らく他地区から来た人達が、本荘由利地域のジオサイトを見ながらという新たな研修も出てきて、もう少し利用者が増えてくるのではないかなと考えている。多くの中学生が利用しているのは、にかほ市の白瀬記念館で、ここをまず見てこちらに戻ってきて県の消防防災の学習をして、ここに戻ってきて、一泊して、自分たちの方に戻っていく途中で事業所をいくつか回ってというような研修が多いけれども、そこに本荘由利地域の鳥海山を中心としたジオパークの学習を入れてもらえれば、また一つ大きな学びになるのではないかなと思う。そういったことを他地区の方々にも宣伝をして、ここを窓口にしながらそういった学習につなぐこともできるということをはなかわかってもらえないので、今回SNSの方にも鳥海小が亀田の不動滝を見たというリアル動画を載せたけれども、こういうことができるということを大きく宣伝していきながら、これを大人でもできるということを伝えていき組み込めるようにしていきたい。

委員

資料にクマの出没情報があるが、ご覧のとおりほんとに身近に迫ってきた驚異のような気がする。私どもは海岸線の道の駅なので、海までクマが降りてくるとことはなかなかないので、もし警戒レベルが高いときの代替プログラムで海の活動を検討してもらえれば我々で協力できることはしたい。海岸でできることというのは限られており、ビーチクラフト、サンドクラフト、浜遊びやビーチクリーンなどであるが、ビーチクリーンは今年度5月末に1回行ったけれども、かなりの漂着物が冬の間流れ着くので、そういう現状を子供たちに

理解してもらいたい。あと可能であれば岩城の浜の夕日はものすごくきれいなので、そういう体験してもらえればいいと思うので代替プログラムとしては是非検討してほしい。

事務局

最近熊が出たのは国道7号線で、海のほうにも実は行っている。おとしは岩城中学校の近くの国道7号線を横断して海の方に渡っていったことがある。熊の習性を見ていると、沢山の人が活動しているときは、こちらには寄りついてなくて、土日の静かな時間帯を選んで近くに寄ってきているのはまず間違いない。なので利用者の中でもこちらで連絡すると、近所でも出ていてちゃんと対策をとれば安全だと思うので普通に活動をやらせてほしいとやっている方々の写真も載せているが、そういうところもあれば、やはり住んでいるところの近所にクマが出ていないということもあって、利用する団体で親から不安が出ているので、室内のプログラムに変えるというようなことが数日前で起こることもある。その際に委員から提案のあった海での活動というものも、沢山の人がいるところは寄りつかないので、指導チームの方でプログラムの開発・協力をお願いをできればと思う。それからビーチクリーンは、今回所の方で参加したいと思っていたが、残念ながらおとなの遠足と重なっており、この後行われるものは早めに教えてもらって事業がかぶらないようにして、こちらの職員と一緒に活動できたらいいなと思ったので、早めに教えてもらえるとありがたい。

委員

ビーチクリーンということで一つ話をさせてもらおうと、毎年小・中学生の海岸清掃というものを7月の1日、1日が土日であれば月曜日に海岸清掃というものをやっていて、今年も海岸清掃は今のところやる予定で進めているところである。道川海水浴場がほぼほぼもう海水浴場を開設しなくなっているのので、多分今年はおとしやったように道の駅の前の海をきれいにしようということでやっていて、よろしく願いしたい。

あとクマの出没の関係でいくと、岩城総合支所の産業建設課というところが担当しており、一応出没の通報があった際には、第一報を警察の方に流し、また、防災無線で地域内への周知をして、そのあとパトロールなり防災メール等も活用して住民の方たちには広く周知をしているということであった。ただ、なかなか連絡が遅かったりとか、あるいは担当につなげなかったりとかあったりして、リアルタイムにはなかなかできないけれども、なるべく早めの周知というものを心がけてやっているということであった。

委員

今委員が言われたことについて、実体は目撃情報があったのに目撃情報があった時刻の2時間・3時間経った後に周知の音楽スピーカーによる放送がある。それではあまりにも遅すぎるので現地で確認しなくてもいいから、まず一報を知らせてほしい。現地に行って本当なのかどうなのかという検証は後でやればといいと思う。

委員

今日、賑やかな声がしているのはうちの学校の子供たちで、小学部の生徒が今日・明日とお世話になっている。なかなか自然の中にどっぷり触れることのない子供たちにとって岩城少年自然の家があることで、年に1回ではあるけれども、貴重な自然と触れる機会をもらって、本当にありがたいなと思っている。これに関しては事前に所での生活の仕方なども出前講座してもらい、学校内の学習とのつながりを持ってできるということも自然の家の活動が幅広くなってきたことでできていることなのかなと思う。今日も本当は長い距離を歩く予定だったが、クマの情報があったということで、少しリスクを下げるような形で人里の方に行ってから歩くというような柔軟なプログラムの変更を一緒に考えてもらったので、そういったことではクマが出たから絶対だめというこ

とではなくて、リスクを下げながら、しかも周りで安全を配慮してもらえということだったので、そのあたりもサポートしてもらえということで、非常に心強く思っていたところであった。

あと、せっかくここに素敵な建物があって、利用者も幅広くなり、魅力アップということで発信はされているが、それとはまた別に、入り口の看板は大分年数が経ってきているので、ここから入り口だよ、というような魅力的な看板を県民の皆さんの目に触れるところに置くことも一つの広報なのかなと思った。

事務局 看板の件については、今年度は予算的に厳しいので、年次計画の中で対応していきたい。

委 員 2つ話をしたいと思う。1つ目は、幅広い世代の活動の周知に力を入れているということで、大変いいことだと思う。やっぱり名前が少年自然の家とつくので、子供たち向けというイメージがあると思うけれども、いろいろな活動プログラムを計画しているので、これをSNS等で周知してもらい、様々な世代に利用してもらいながら、どんどん利用の幅を広げてもらいたいと思っている。併せて、ガンパルという名前のガンが岩城の岩だとすぐに頭に結びつけたのだけれど、とても良い名前だと思う。これも併せてアピールしてもらえればと思った。

もう1つはクマのことと関連して、本校の子供たちがあさってから2日間105名お世話になる。ちょうどこのタイミングなので、ちょうどクマのことと関連して、対応してもらって有り難い。先ほど代替プログラムの件とか、柔軟な対応という話も受けており、プログラムとしてはナイトハイクとか形を変えてやるような方向で計画を立てている。そのあたりの代わりのプログラムについても、いろいろと柔軟に対応してもらっていることをぜひ継続してもらって、せっかく子供たちが来る大事な機会なので、いろいろな面でサポートしてもらえればと思う。

委 員 野外炊飯のメニューを見ると、カレーと豚汁の2種類しかないが、県外のこのような施設を見ると、もっとメニューの選択の幅があったような気がする。他の選択肢は考えていないのか

事務局 野外炊飯は、ほとんどがカレーで、豚汁を選択している団体は、年に1つくらいである。今メニューの選択肢という話があったが、こちらのほうは委託業者との兼ね合いもあって、まずこういう意見が出たということで、栄養士とともに指導チームで検討していきたい。

委 員 焼きそばやバーベキューなどをやってる施設もあるようで、私事ではあるけれども随分前に福島県のいわきに子供とこういうキャンプをしたことがある。そのときは親子キャンプで、野外炊飯でルーを使わないビーフシチューとか、あとはたしかピザを作った。子供にすればそれが思い出のようであった。

委 員 親子キャンプであれば親がいるのでいろいろバリエーションができるだろうけれど、子供だけであればちょっと危険度が高いような気がしないでもないが、今の子供にもやっぱりカレーは圧倒的に人気はあるのだろうか。

事務局 はい。

委 員 もしメニュー検討できるものがあればしたいと思うので、何なりと言ってほしい。

委 員	関連して、例えば、山菜を子供に親と併せて一緒に教えて、これからの時期ずっと秋頃までその辺にたくさんのおいしいミズがあるので、ミズのタタキでもいいたろうし、そういうちょっとした工夫があれば子供たちが喜ぶだろうと思う。
事務局	食に関する意見を頂戴しているが、まず安心安全を確保するためにカレーと豚汁の2種類であるわけだが、ファミリー企画でやる時には、うどんを作ったりしている。今回視覚支援学校ではピザ作りに挑戦している。それから昨年度、その前の年もそうだが、ここで採れるワカメを分けてもらって、ワカメを食べるという企画もやっている。その動画でワカメの色がお湯につけた瞬間に変わるのを載せたら、非常に多い再生回数になっており、子供たちの目は輝き親もびっくりしていたが、そういう食を通しての体験も、時々特別企画でできればいいのかなと思う。インスタグラムを各県の自然の家と相互フォローしているが、他県ではタケノコを採って食する企画とか、採った山菜を天ぷらにして食べようといった企画を春先にやっていて、たくさんのお親子が喜んで食べている写真が載せられていたが、委員の意見のように、地域のものを採ってみんなで食べるという自然を活用して生きていくという一つのプログラムは、私たちも開発していかなければならないと思う。
委 員	岩城少年自然の家と鳥海山・飛島ジオパークは今年の2月に連携協定を締結した。今年度、一つ目の大きな事業として6月29日・30日に県内のジオガイドの研修会というかたちで、こちらの施設を宿泊も含めて使わせていただく予定。国内では46地域がジオパークは認定されている。秋田県では4地域であり、北海道を除いては一番多い。研修事業の概要は男鹿半島・大潟と湯沢と八峰白神と私たち鳥海山・飛島のジオガイド35名位が集まりガイドスキルの向上を目指す。また、うち20名位は宿泊も予定している。鳥海山・飛島には火山地質学の専門家と生態系の専門家がいてそれぞれの地域に専門員や研究員がいる。県内のジオガイドが自らの地域の専門員以外からも学べる研修会をここで開催できれば良いと考えている。なお、県外からも福島県の磐梯山からの参加の声も上がっている。ここは秋田県内では中心に位置しているしジオパークという意味でも4地域からそれぞれが来やすい位置にあると思う。継続してやっていけると良いと思っている。
委 員	2月に提携を結んだということであったが、子供たちにどこまで範囲を広げてジオを知ってもらえるような活動を一緒にできると考えているのか教えてもらいたい。
委 員	岩城少年自然の家事業には昨年も声がかかり参加している。依頼があった場合は、研究員やジオガイドを派遣するよう都合調整している。こういったことなら問題なく行えると思う。あとは、「おとなの遠足事業」で当方のサイトを訪問していただけるケースもあった。こういった事業にジオガイドを無償で派遣することもあった。こちらではジオガイドの学習の機会にもなると思っている。連携協定はまだ締結したばかりであり、色々な機会を探しながらジオパーク活動を行っていければ良いと思っている。鳥海山・飛島ジオパークの知見をこの地域に広げていくための機会にもなる。29日・30日のイベントでは連携協定の締結により行える事業なので、是非、報道機関には取材に来ていただきたいと思っている。
事務局	今回ジオガイドから派遣してもらったのが冬のおとなの遠足で、元滝を訪ねる企画、それから春のおとなの遠足で桑ノ木台湿原と法体の滝というところをやらせてもらった。ガイドもその地域のガイドが初めてという方がついてもら

い、お互いに学びの場になったということを書いてもらったので、是非そういったことを企画したい。亀田の不動の滝もそのガイドが初めて案内したということであったが、お互いにそういうことやっていけたらいいと思う。鳥海山・飛島ジオパークから来てもらったりお願いしたりすることが多いが、私たちも自然物工作を始め、いくつかのプログラムを持っているので、そちらの方で例えばジオの学習会とかやるときに一つのブースを貸してもらったらお互いに相互協力できるのではないかと思うので、この後今年イベントの中で詰めていければと思っている。

委員 ジオパークのことをわかっているようでわかっていない人が多いと思うので、毎年開催している自治会研修会のなかで一度ジオパーク事務局に伺って勉強させてもらうことはできるものだろうか。

委員 うちの方の研究員なり、私なり、職員なり自治会の総会があった後に講演会というような時間をもらったりだとか、要望あった際は派遣して説明しているので、事務局に来てもらっても全然大丈夫である。